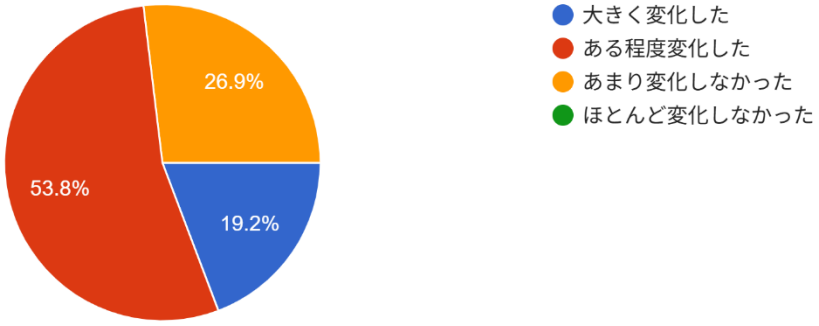
けんしゅうだより② ９月

中央中等教育学校　授業研究･FEWC 推進部
新しい学びのための授業改善研修　第２号　令和8年10月30日発行

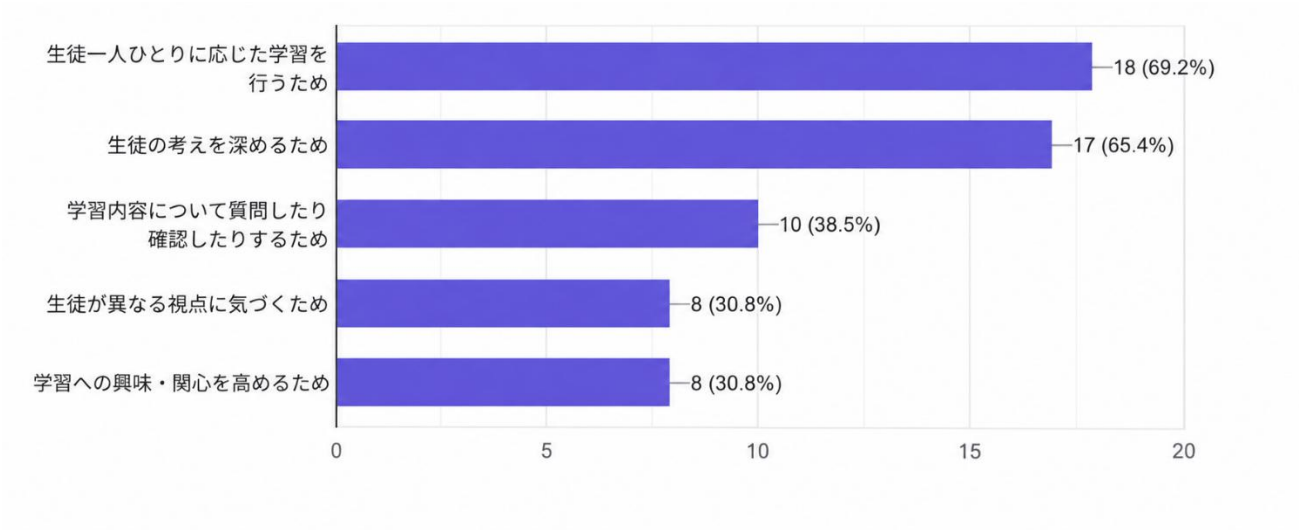
＊授業別グループ協議および教員アンケートをもとに作成しています。
＊スペースの都合上、ご意見を合わせたり、編集したりさせていただいた部分がございます。

校内研修テーマ：
AI 活用を取り入れた、個別最適な学びを伴う探究的･創造的な学習の導入

1. 今回の授業参観･研修を通して、「AI の活用」に対する考え方に変化はありましたか。



2. AI を活用するとしたら、授業のどのような場面で活用することが効果的だと思いますか。



1年 社会（安井航 教諭）

1．今年度のテーマに関して、今回の授業参観・研修を経て、新たな気づきやご自身の授業に生かしたい側面等はありますか。

・AIは必ずしも新しい教材や特別なプログラムを導入する必要はなく、既存のテキスト教材をより効率的に活用するための手段としても有効であることが示された。
・AI との対話を通して考えを深めることで、用語の暗記にとどまらず、学習内容の流れや因果関係と結び付けた理解につながることが実感され、自身の授業でも実践してみたいという意見があった。

2.グループ協議から

今回の授業では、生徒が自分のペースでプリントに取り組み、早く終わった生徒は板書を写したり教科書を読み込んだりするなど、それぞれが時間を有効に活用する姿が見られた。また、生徒の発言や反応が活発で、意欲的に学習に取り組める雰囲気がつくられていた。資料をホワイトボードに映して視覚的な理解を促したり、天皇家と藤原家の関係を「サザエさん」に例えて説明したりするなど、生徒の興味・関心を引き出す工夫も印象的であった。さらに、登場人物の心情を吹き出しに書き込む活動は、通常の問題演習とは異なる視点から歴史を捉える機会となっていた。用語検索用のスプレッドシートについては、生徒による活用が想定より少なかった一方、生徒自身が調べた内容を追加し、教員と生徒が一緒に作り上げていく教材として活用する可能性も示された。こうした実践を参考に、各教科でも生徒の主体性や多角的な思考を促す教材・活動を取り入れていきたい。

2年 英語（岡田夏実 教諭）

1．今年度のテーマに関して、今回の授業参観・研修を経て、新たな気づきやご自身の授業に生かしたい側面等はありますか。

・AIは生徒が自分の理解度を確認するだけでなく、新たな視点を得て思考の幅を広げるためのツールとしても有効であることが再認識された。
・海外留学生を支援する立場から、異文化に関わるさまざまな事案への対応策を考える活動では、多様な視点から解決策を検討することの有効性が示された。
・教科書の登場人物に手紙を書き、AI とのやり取りを通して考えを深めるなど、教科の特性に応じた新たな活用方法への発想も見られた。

2.グループ協議から

本時では、AI とのやり取りを通して相手意識（他者の視点）を持つというねらいが達成された一方、ライティング力の向上については今後の課題として挙げられました。生徒はトピックを自分事として捉え、意欲的に学習に取り組んでいました。生徒同士の対話と、AI を活用して個人で考えを深める活動がバランスよく取り入れられ、メリハリのある学習が展開されました。生徒からも「楽しかった」という声が聞かれ、AI を活用した学びの可能性を感じる授業となりました。

3年 英語（小澤俊平 教諭）

1．今年度のテーマに関して、今回の授業参観・研修を経て、新たな気づきやご自身の授業に生かしたい側面等はありますか。

・AIを活用した具体的な授業実践を知ることで、探究的な学びや生徒が自ら問いを立てる活動への活用イメージが広がったという意見があった。
・AIの活用方法が分からず、実践に踏み出せていないという課題も挙げられた。
・中学生段階では、Gem のようにあらかじめ利用範囲を設定した AI を活用することの有効性が指摘されるとともに、将来的に制限の少ない AI を適切に活用できるよう、プロンプトの作成方法や AI を正しく使うための知識・判断力を段階的に身に付けさせる必要性も共有された。

2．グループ協議から

探究的な学びの出発点は、生徒自身が「問いを立てる」ことです。研修では、生成 AI（Gemini）とのやり取りを通して、生徒が考えを深め、新たな問いを見いだす可能性について学びました。英語の授業でも、AI を新出言語材料の習得だけに結び付けるのではなく、生徒が自分の考えを深めるための手段として活用できます。AI を使うこと自体を目的とせず、生徒が自ら問いを発見し、教科の枠を越えて学びを広げられる授業づくりが大切です。

4年 数学（田中みゆき 教諭）

1．今年度のテーマに関して、今回の授業参観・研修を経て、新たな気づきやご自身の授業に生かしたい側面等はありますか。

・AI は情報収集だけでなく、単元の導入やまとめの場面で生徒の興味・関心を高め、学習の見通しをもたせるためにも有効であることが共有された。
・AI から複数の異なる視点を得ることで、生徒の思考を広げ、概念的理解を深める学習活動や、試行錯誤を通して考えを形成する過程での活用にも可能性が見いだされた。
・AIが提示する多様な情報や考えの中から、生徒自身が必要なものを選択・判断する活動を通して、個別最適な学びにつなげていきたいという意見もあった。

2．グループ協議から

今回の授業では、共通の問いを出発点としながら、生徒が自分の興味・関心に応じて歴史・物理・技術など多様な視点から探究を進めることで、個別最適な学びが実現されていた。AI との対話を通して、知識や理解度の違いに応じた試行錯誤が可能となり、情報を取捨選択しながら考えを深める姿が見られた。また、キャッチコピーの作成という創造的なアウトプットを設定したことで、単なる情報収集にとどまらず、生徒一人ひとりの個性や発想が引き出され、虚数を学ぶ意義や数学と社会とのつながりへの理解にもつながっていた。さらに、個人での探究に加え、学んだことを友達と嬉しそうに共有する姿から、AI を活用した個別の学びと、教室で他者と対話・交流することの両方の重要性が確認できた。今回の実践は、AI を単なる検索ツールではなく、思考を深め、新たな視点を得るためのパートナーとして活用することで、数学などの理系科目においても、探究的・創造的な学びを実現できることを示す事例となった。

5年 物理（松村命輝 教諭）

1．今年度のテーマに関して、今回の授業参観・研修を経て、新たな気づきやご自身の授業に生かしたい側面等はありますか。
・AIを活用しやすい分野とそうでない分野があることや、学習内容を深めるために効果的に活用することの難しさが共有された。 ・プロンプトの指示方法や、ソクラテス式問答を通して生徒が自身の理解度を確認し、理解度に応じた学習に取り組む方法など、具体的な活用方法への気づきが見られた。 ・AIを活用して個々のペースで学びを深める生徒と、教員の支援を受けながら学ぶ生徒が共存する授業の可能性が挙げられた。 ・個別最適な学びにおけるAIの有効性に期待が寄せられる一方、協働的な学びへの活用については、今後の課題として捉えられている。
2．グループ協議から
今回の授業では、理解度に応じて3段階のレベルを設定したことにより、生徒が自分の学習状況を把握し、それぞれのペースで学習を進められる点が評価された。また、AIの活用は個別最適な学びを支えるうえで有効であり、各自で調べた後に協働学習へとつなげる展開も考えられるという意見があった。一方で、AIをどのように活用するか、また生徒が適切に使えているかをどのように確認・評価するかについては課題が残る。AIによる自学自習と教員の説明を目的に応じて使い分けることや、国語の小説教材など、教科の特性に応じた活用の可能性も示された。さらに、画像から情報を読み取る機能の便利さが評価された一方、簡単な計算で誤答したり、意図しない言語で回答したりする事例も報告され、AIの回答をそのまま受け入れず、正確性を確認する必要性が指摘された。生徒の学習の様子については、物理への得意・不得意によって取り組みに差が見られ、AIを十分に使いこなせていない生徒もいたことから、個々の状況に応じた支援や、AIを活用する目的の明確化が重要である。

6年 化学（前原彬孝 教諭）

1．今年度のテーマに関して、今回の授業参観・研修を経て、新たな気づきやご自身の授業に生かしたい側面等はありますか。
・AI はあくまでも学びを深めるための手段の一つであり、目的ではないという認識が改めて共有された。 ・授業内容や学習活動によっては、AI を活用しない方が効果的な場合もあり、生徒が必要性を感じた場面で自然に活用できるようにすることが大切である。 ・AI の活用が効果的な場面を見極め、授業に適切に取り入れることの難しさも指摘された。 今回の研修は、AIをどのように授業に導入し、生徒の学びに生かしていくかを考える機会となった。
2．グループ協議から
今回の授業では、資料集や参考書、3Dアプリ、AIなど複数のツールを用意し、生徒が目的に応じて選択できる環境が整えられていた。一方で、AIを利用する生徒は想定より少なく、原子モデルの操作に時間をかける中で、AIを活用する時間が十分に確保できなかったことや、フィルターの制限、原子モデルの組み立ての難しさなどが課題として挙げられた。協議では、AIを使うこと自体を目的とするのではなく、生徒が何を深めたいのか、どのような課題を解決したいのかを明確にすることが重要であるとの意見が出された。また、生徒が必要性を感じたタイミングでツールを活用できるようにすることや、AIの回答をうのみにせず、人との話し合いを通して考えを深めることの大切さも確認された。3Dから2D、さらに2Dから3Dへと視点を変化させる学習過程は、構造の理解を促す工夫として評価され、今後は生徒の探究を妨げないツールの活用方法や、意見交流の時間の確保についても検討していく必要がある。

6月に行われた公開研究授業後に、「学習の個性化」に関してご自身の授業に変化はありましたか。また変化があった場合、それは具体的にはどのような変化ですか。
今回の研修を通して、AI の活用に大きな変化はない、まだ授業で実践できていないという意見がある一方、授業準備への活用に気づいたり、実際に対話的なタスクを導入したり、すべての単元で活用するようになったりと、実践につながる変化も見られた。また、AI をコーチ役として活用することや、生徒一人ひとりに合った効果的な活用方法について検討する意見もあった。AI に思考や判断を委ねるのではなく、人間が主体となって活用することの重要性を意識しながら、今後はリフレクションや多角的な視点の導入など、さまざまな場面での活用を模索していきたいという声が寄せられた。

「個別最適な学び」に関して、ご自身の授業で感じている課題はありますか。ある場合は具体的に記述してください。
個別最適な学びの実現に向けては、教科の特性や授業形態によって AI の活用が難しいことや、生徒一人ひとりの理解度・学力差に応じた支援の方法が明確になっていないことなど、さまざまな課題が挙げられた。特に、学力差への対応や、学習に困難を感じている生徒への支援、意欲的に取り組める生徒の活動の充実、個々の学習状況の把握や評価方法などに悩む声が多く見られた。また、AI を使うこと自体を個別最適な学びと捉えるのではなく、生徒の選択肢を広げ、AI の回答をもとに他者と対話しながら思考を深めることが重要だという意見もあった。今後は、適切な課題設定や学習の到達点の明確化を図りながら、生徒の主体性を尊重しつつ、必要な支援を適切に行う授業づくりが求められる。